

nipponico IBARAKI -桜川の石小物開発-

【活動経緯】茨城県桜川市には、真壁・羽黒・稲田(笠間市)などの石材産地が点在し、石材加工の世界有数の集積地となっています。海外製品の需要が高まる中、加工技術の集積を活かした新たな用途拡大が求められています。

【活動内容】①アンケート調査…工芸素材(漆・石・布・焼物・木)、石製品(建築材・料理用商品・墓石・モニュメント)、茨城県のイメージを探ること。
②商品企画…コンセプト作り、機能評価。

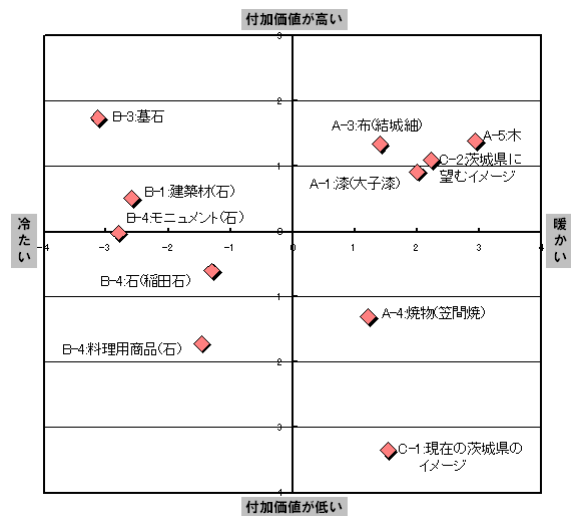
【結果】

①アンケート調査 『茨城県の工芸産業に関するアンケート』を実施し、調査を行いました。
回答者：10代～60代の男女255名(男179・女69・無回答1/県内130・県外115・国外1・無回答9)
調査期間：2009/1/22～2009/3/3
調査方法：webアンケート(主成分分析・重回帰分析)

主成分分析によりイメージを特徴付けるキーワードを絞った結果、第1軸は「暖かくほっとする」と「冷たく緊張する」に、第2軸は「洗練され豊かで一生もの」と「粗野で貧しく使い捨て」となりました。第1軸を『暖かみ軸』、第2軸を『付加価値軸』としてイメージマップを作成したところ、他の素材に比べ、石は「冷たい」という印象が顕著に現れました。

※3軸の累積寄与率は60.88%。固有値1以上を採用。

また、重回帰分析により嗜好とイメージとの関係を探った結果、石材製品については、豊かで安心するイメージのものがより好まれ、身近なものがほしいということが明らかになりました。居住地による差異では、県外居住の方の方が石への関心が高いという結果でした。



②商品企画

石本来の素材感利用しもっと手に触れる商品を作ることを目標に、『暮らす石』をコンセプトに商品企画を進めました。削る・播る・叩くなどのキーワードから「播る」に注目し、石のおろし器を提案、表面加工の違うおろし器を試作しました。実際にわさびをすり下ろし、わさびに含まれる辛味成分量と表面形状の関係を調べました。

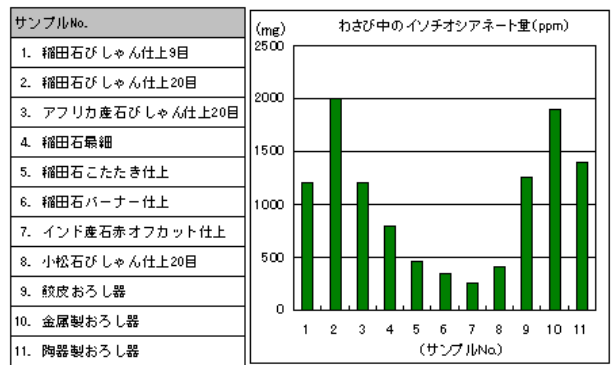


その結果、わさびの辛

味成分の主体であるアリルイソチオシアネートの量は、稲田石びしゃん仕上20目(No.2)で最も高く、次いで金属製おろし器(No.10)となり、石製であっても既存商品と遜色ない効果が得られることが明らかになりました。今回のアンケート調査結果を踏まえ、今後の商品開発につなげていきたいと考えております。

(※写真 2008/12/8,9 開催「熟成された技 味わい展」於：県庁の様子)

- 活動・商品企画協力：桜川市役所企画課 主事 山川 拓也
- 試作品製作協力：相田豊石材店 相田 正志
- アンケート調査協力：筑波大学大学院博士課程 中森 志穂



基礎となった事業 平成20年度 試験研究指導費(標準)

担当部門	工芸技術部門	技師 望月 聡美	TEL : 0296-72-0316
	地場食品部門	技師 坂井 祥平	TEL : 029-293-7212